2023年度会計予算案

2022/02/20

単位：￥

収入項目	単価	予算
加盟金		
加盟金	2,000	2,500,000
賛助金		
2023年度賛助金		100,000
事業収入		
2022年度ICSL貸付金		1,500,000
2022年度ICMR黒字返金		350,000
地図関係		
地図収入		2,500,000
その他		
関東学連から家賃として		50,000
インカレ限定ウェア寄付		30,000
利息		1,000
	小計	7,031,000

※1.WUOCは2年に一度であり2年に一度まとめて30万円を支出するが
計算上は1年に15万円を予算として計上することとなる

単位：￥

支出項目	詳細	予算
インカレ関係		
2023年度ICSL貸付金		1,500,000
事業部		
キャンパスOツアー	景品など	30,000
後夜祭・講習会開催費用	ボランティアへの日当など	150,000
事業部活動費		10,000
事務局		
事務局活動費		10,000
普及部		
新歓フライヤ—事業	新歓フライヤーの発注、デザインの原稿料	100,000
「みちしるべ」事業	インタビュアーの交通費、貸会議室代など	100,000
普及部活動費		10,000
渉外部		
地元渉外	回覧書の印刷・郵送、あいさつ回り	100,000
UNIVAS担当費	あいさつ回りなど	50,000
渉外部活動費		10,000
技術委員会関係		
学連合宿補助		200,000
WUOC補助 ※1	オフィシャル補助など	150,000
理事会・幹事会関係		
幹事会・総会開催費	交通費・宿泊費・会場使用料・資料印刷代	900,000
理事会開催費	交通費・宿泊費・会場使用料・資料印刷代	100,000
SPU関係		
SPU活動費		100,000
事務局維持費		
事務局維持費	家賃・資材管理費・基本渉外費	1,200,000
地図関係		
地図作成費	前高原エリア更新調査	1,500,000
その他支出		
JOA関係	年会費	100,000
	保険金	3,000
UNIVAS年会費		100,000
地区学連への賛助金フィードバック		20,000
oラーニング	旧インストラクタ講習会	550,000
手数料		20,000
	小計	7,013,000

インカレ競技者数及びその配分に関する規則の改善

2023 年 2 月 10 日

静岡大学　井土　宙

1.　問題点

入賞に関わってくるような選手が競技者数配分(地区学連の枠)の関係で選手権クラスに出られない

(例)　東海学連に 1 枠しかなく、全日本大会で活躍するような選手が 4 人存在している

2.　議論の目的

インカレという学生内のトップを決める舞台に、現状の枠配分の関係で選手権に出られない実力者を選手権に出場させること。

今回の幹事会では、問題点とその改善方法について共有をし、各地区学連で意見を募集し、次回の総会にて決議する。

3.　改善方法

①　推薦枠を導入する

②　日本ランキングを利用する

4.1 推薦枠の導入

日本学連技術委員会に推薦書を提出し、技術委員会の承認により選手権出場資格を得る。

2023 年度インカレから開始し、第二条「競技者数と配分の対象」の 3 とする。

対象者：入賞に関わってくる選手。

→エントリー締切日での学生内の日本ランキング上位 12 位以内（この基準はインカレ入賞に関わってくるだろう順位)。現状日本ランキング以上の実力の指標となるものはないため日本ランキングで対象者を選ぶ。

対象地区学連：上記基準ランキングを満たす選手人数が地区学連の枠配分の人数より多い場合であること。

→選手権出場者を決めるのはセレではなく地区学連なので、多く枠があるがセレで選ばれなかった実力者が出場できないのは地区学連の問題である。

その他の規則として

・推薦枠で出場する選手は来年度の枠を獲得できない

→獲得できる場合、この制度を悪用し来年度の選手権人数を増やすことができるため

4.2 推薦枠の導入のメリット

・インカレという学生内のトップを決める舞台に、現状の枠配分の関係で選手権に出られない実力者を選手権に出場させることができる

4.3 推薦枠の導入のデメリット

・技術委員会の負担が増える

5.1 日本ランキングの利用

※インカレが終了していることから 2023 年度は適用しません

①各地区に学連枠を男子 2,女子 1 配分。残りの配分はすべてをランキングに基づく。

②全員(男子 60,女子 30 人)をランキングで選出する

5.2 日本ランキングの利用のメリット

・実力者が確実に選手権に出場できる

・セレのリソース問題が解決

・学生が日本ランキングに関心を持つ

5.3 日本ランキングの利用のデメリット

・金銭的負担が増える。

→インカレに来ない理由として金銭的問題があげられている状況で更に金銭的負担をふやしてしまう

・地区によりランキング大会の開催頻度のばらつきがある

→関東圏では多く開催されており、北海道では年 2 回程度である

・セレ文化がなくなる

→現状インカレよりもセレのほうが参加人数の多い状況である。セレは学生にとっての Big イベントである。

・現在ランキング大会に参加する学生は多くいない

・規則の変更が多く、制度をつくるのに膨大な時間がかかる

6. 決議に関して

①変更なし

②推薦枠の導入

③ランキングを利用

インカレの今後の開催形態について

22年度日本学連幹事長　浴本悠貴

背景

- 社会人が仕事の合間に現行形態のインカレ（特に秋インカレ）を運営するのは負荷が高く、近いうちにインカレが開催できなくなる恐れがある
- 今回の論点はできるできないではなく、続く続かないの話
- 日本学連では、OBOGと相談の末、以下の2つの開催形態案に行き着いた。
  - インカレスプリントと全日本スプリントを併催する案
  - 2日間会場が同じ場所でのみ、インカレスプリントとロングの2日間大会を開催する（会場が同じだと負荷が小さくなるため）

なぜ会場が同じだと負荷が軽減されるのか

1. <u>資材を2日間同じ場所に置いておける</u>

   インカレのタイトなタイムテーブルの中で資材の引越をするのは大変である。

2. <u>渉外の負担が減る</u>

   運営者のほとんどは社会人であり、渉外のための日程調整が困難を極める。渉外先が多ければ多いほどその負担は大きくなるため、できるだけ少なくする努力が必要である。

   （過去のインカレ渉外は事業者である山川さんの熱意により実現されていたが、体調不良等もあり今後もずっと山川さんを頼りにするのは不可能である）

2日間会場が同じ場所の候補

1. 富士見・編笠or八ヶ岳（2022/2015秋インカレ）
2. 矢板運動公園・前高原など（2021秋インカレ）
3. 笠間星ノ宮（2023秋インカレ）
4. 鬼久保ふれあい広場・作手高原
5. トリムパークかなづ・あわら迷図

※2017秋インカレが行われた駒ヶ根・アルプスの丘はコロナでキャンプが流行ってかなりの部分がキャンプ場になったため、もはやスプリントはできない

※5のトリムパークかなづ・あわら迷図は福井県のテレインであるため、運営者が不足する可能性がある。

2案の検討観点について（1/3）

	全スプとの共催	ロングとスプリントが近接している場所（会場が同じ場所）でのみの開催
運営負荷	△	△
選手への金銭的負担	× （インカレが年3回開催されることとなるため費用負担が増える）	△
選手の身体への負担	○	△
選手のインカレへの準備	△ （冬に開催予定だが未定。ミドルとスプリントの並行調整が必要になる可能性）	△ (スプリントとロングを並行的に調整する必要あり)

2案の検討観点について（2/3）

	全スプとの共催	ロングとスプリントが近接している場所（会場が同じ場所）でのみの開催
学生のための選手権大会	×	○
渉外難易度	×	△
集客性	△ （共催してもスプリント単日という事実は変わらないので、学生が来るかわからない ⇔ 全スプ側にとっては今まであまり来てなかった学生を呼ぶチャンス）	○ （スプリントとロングの2日間大会だからこそ行くという学生もけっこういる）

2案の検討観点について（3/3）

	全スプとの共催	ロングとスプリントが近接している場所（会場が同じ場所）でのみの開催
競技力発展	△ （質の高いスプリント大会が2本から1本に減る）	○ （学生が競う場であるインカレの種目がスプリント・ロング・ミドルの3つある）
（スプリントテレイン・コースの）質	○ （全スプと共催なので最高峰のテレインとコースのクオリティが要求される）	× （テレインがかなり限られるので、コースの質も長い目で見れば低下する）

最後に

- 各校にて議論の末、3/30までにこちらのグーグルフォームにて①全日本スプリント併催か②2日間会場が同じ場所でのみ、秋インカレを現行形態で開催するのどちらがいいか決めていただきたいです。
- 各校1票で、票数の多いほうの案を24年度以降のインカレの開催形態とする。（※変化する現状に合わせて、変わっていく可能性はあります）